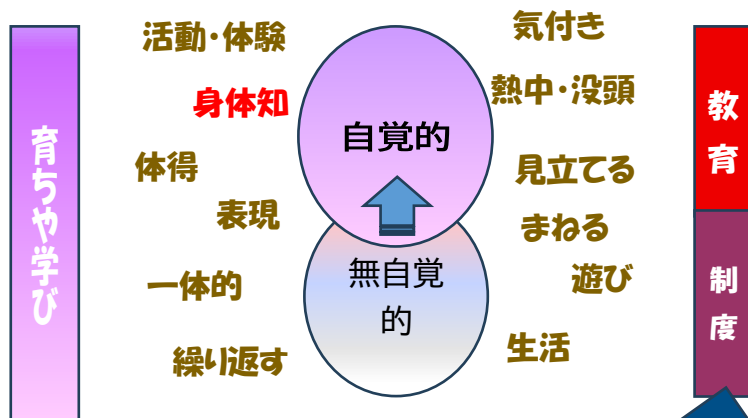


嶋野道弘先生のご講演より(3)

テーマ “やってみたい・やりたい”を伸ばす保育・教育
～自己発揮と子どもの育ち～ 「身体性」

「発達にふさわしいことをすると、将来にわたる学びの力、生きる力が伸びる。育つ。」という幼児期の特徴が世界的な研究により、科学的根拠をもって明らかになっています。「幼児期にふさわしい発達があり、教育がある。すなわち、遊びは学び」ということです。架け橋期の子どもたちの発達はこの時期にあります。嶋野先生講演シリーズ(3)は、架け橋期の子どもの学びの特徴、その中の身体性・身体知についてのお話です。

架け橋期の子どもの学びの特徴



子どもの視点で見ると、育ちや学びはグラデーション

育ちと学びは切れないのに、幼保と小で制度が違うため分断されがち。それが育ちと学びにも反映してしまう。

♥参加者の感想より
子どもたちが全力で友達と遊べる環境を整えて、自己発揮、身体性、想像力が育まれることが大切だと思います。(保)

子どもの心身の動きや考えは、日々の経験や体験から培われているという内容がとても納得しました。幼少期の何気ない経験や考えたことや感じたことが未来の自分に活かされることを学びました。(幼)

身体知

身体が身に付けた知のこと。繰り返し遊んだり活動したりする中で身に付いていくもので体験的知性とも言い換えられる。架け橋期の子どもたちの大きな特徴です。

嶋野先生の言葉(詩のようです!)を紹介します。

「手応え」や「手加減」
獲得する
身体を通して
実践的な能力
生活を豊かにする
体で感じ
体で考え
体で表現し
体で行為する



ウォータースライダーに挑戦



シャボン玉が手に乗った!



草花染め。この匂いは・・・



みつけた木の実
そっともってこう